

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	基礎分野	授業科目	情報科学
担当者 資格、役職等	元高専嘱託教授	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 コンピュータリテラシーを習得し、看護に役立てるための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 情報の概念を理解し、コンピュータの仕組みと動作、基本ソフトウェア（OS）とアプリケーションソフト、インターネットやメールの仕組みと情報セキュリティなどの報通信技術（ICT）の基本に関して学習する。また、ICTを活用した医療における情報処理システムと看護における利用についても理解を深める。さらに、情報の検索方法とセキュリティ対策方法、および情報の効果的な活用のための加工・処理方法について、実習を通して情報リテラシーの基本的な手法を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 情報科学の基礎</p> <p>第2回 情報の表現とデータ構造</p> <p>第3回 コンピュータシステムの構成と動作</p> <p>第4回 基本ソフトウェアとアプリケーションソフトウェア</p> <p>第5回 インターネットの仕組みと利用形態</p> <p>第6回 情報倫理とセキュリティ</p> <p>第7回 看護情報学の基礎</p> <p>第8回 医療情報システム</p> <p>第9回 病院情報システム</p> <p>第10回 メールシステムとインターネットによる情報検索の演習</p> <p>第11回 検索データの報告書作成の演習</p> <p>第12回 表計算ソフトによる情報活用方法の演習</p> <p>第13回 表計算ソフトによるデータ分析手法の演習</p> <p>第14回 検索情報のプレゼン資料としてのまとめ方の演習</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学（医学書院）		
参考書	基本情報技術者 合格教本（技術評論社）		
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	情報工学を専門とする元高等専門学校嘱託教授が情報科学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	社会学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>看護は人が人をサポートする対人サービスである。これは人間社会における崇高な社会的行為である。また、それは医療機関という組織の中での活動であり、少人数のチームによる活動である。したがってその少人数の人間関係が常に円滑に維持されることが重要である。</p> <p>そうしたことから、看護に携わる者にとっては、社会全体の仕組みを知りつつ、身近な人間関係を適切に作り上げるためには、人間関係の成り立ちを深く理解する能力が求められる。</p> <p>そこで、社会学が追究してきた課題をたどりつつ、家族や地域社会の課題に沿って、今日的な社会問題を取り上げ、その中の人間関係の在り様を考える。</p>		
授業計画	<p>(1) 社会学の成立と人間関係論</p> <p>(2) 家族と家制度</p> <p>(3) イエとムラの議論</p> <p>(4) 戦後社会の課題</p> <p>(5) 家業と職業</p> <p>(6) 産業革命のもたらしたもの</p> <p>(7) 地域社会の変容と課題 ①</p> <p>(8) 同 ②</p> <p>(9) 地域社会と環境問題 ①</p> <p>(10) 同 ②</p> <p>(11) 沖縄の社会と文化 ①</p> <p>(12) 同 ②</p> <p>(13) 同 ③</p> <p>(14) 戦後と復帰後の沖縄</p> <p>(15) 筆記試験</p>		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜資料紹介する		
評価の方法	レポートについては別途指示。 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が社会学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	心理学
担当者 資格、役職等	臨床心理士	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人間の心や行動様式を理解し、患者や家族、同僚等との信頼関係を構築するための基礎知識の習得を図る。</p> <p>【概要】 心理学の基礎的知識を講義、演習を通して身につける。さらに、これらの知識を看護場面づけて学ぶことにより、対人援助に携わる者として自己理解、他者理解をどのように深めたらよいかを実践的に学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 心とは、心理学の歴史 心理学の基礎知識</p> <p>第2回 知覚</p> <p>第3回 記憶</p> <p>第4回 思考：概念形成</p> <p>第5回 発達：乳幼児期から青年期</p> <p>第6回 発達：成人期から老年期</p> <p>第7回 学習</p> <p>第8回 言語・コミュニケーション</p> <p>第9回 対人認知 人格へのアプローチ</p> <p>第10回 人格：知能・性格理論</p> <p>第11回 人格：心理検査</p> <p>第12回 防御規制・ストレスマネジメント</p> <p>第13回 カウンセリングの基礎・傾聴</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	新体系看護学全書 基礎科目 心理学		
参考書			
評価の方法	始講時説明。 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床心理士が心理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	倫理学
担当者 資格、役職等	大学准教授	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人と人が良い関係をつくって生きていくために、人としてのあり方や態度、行為について考える。</p> <p>【概要】 根源的に大事なものである命、健康、安らかな死、安全、人間関係、人としての尊厳、正直、安楽、公平などについて自己の価値を問い、他者との違いを知り、そこで考える。人を対象とする看護を学ぶ上で、自己の礎を築く。</p>		
授業計画	<p>第1回 倫理とは— 倫理の基礎 第2回□ //</p> <p>第3回 生命倫理とは 第4回 性と生殖の生命倫理 第5回 死の生命倫理 第6回 先端医療をめぐる生命倫理 第7回 専門職の倫理 第8回 試験</p>		
教科書			
参考書			
評価の方法	授業参加度およびレポート 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学准教授が倫理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	人間関係論
担当者 資格、役職等	臨床心理士	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>人間関係を形成するためには、自己を理解し、他者を理解する必要がある。人間関係を築くために必要な知識・技術が理解できることを目標とする。</p> <p>【概要】</p> <p>医療は、患者を中心として、様々な職種が連携・協働し、チームとして行われる活動である。看護師は患者に一番近い存在であり、患者との関係を構築することは無論のこと、患者を支援する職種間のマネジメント機能を果たす。人との関係性の構築に必要な基礎的な知識・技術を学ぶ。</p>		
	<p>第1回<input type="checkbox"/>人間関係の基礎、人間関係の中の自己と他者</p> <p>第2回 対人関係と役割</p> <p>第3回 態度と対人行動</p> <p>第4回<input type="checkbox"/>集団と個人</p> <p>第5回 人間関係をつくる理論と技法</p> <p>第6回 <input checked="" type="checkbox"/>コミュニケーション、カウンセリングと心理療法</p> <p>第7回<input type="checkbox"/>コーチング、アサーティブコミュニケーション</p> <p>第8回<input type="checkbox"/>試験</p>		
教科書	人間関係論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業中のレポート、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床心理士が人間関係論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	英語
担当者 資格、役職等	英会話講師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】日常生活や看護場面での英語を教材として、基本的な表現を身に着け、同時に異文化への理解を深める</p> <p>【概要】簡単な英文を読んだり、看護場面の英会話をペアやグループなどの対話形態で練習し、しっかりと英語を発話できるようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 自己紹介とあいさつ</p> <p>第2回 患者さんへのあいさつ</p> <p>第3回 体の部位と症状の表現</p> <p>第4回 受診手続き</p> <p>第5回 病室と入院手続き</p> <p>第6回 計測と数字</p> <p>第7回 院内の職業と案内</p> <p>第8回 日常看護</p> <p>第9回 日常活動動作と指示表現</p> <p>第10回 病歴と治療の処置の表現</p> <p>第11回 薬の種類と服用の表現</p> <p>第12回 文化と宗教の違いと心のケアの表現</p> <p>第13回 入院生活の日課の説明</p> <p>第14回 会話の作成</p> <p>第15回 テスト</p>		
教科書	ロッタとハナの楽しい基本看護英語 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	英会話講師が英語について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習
分野	基礎分野	授業科目	保健体育 I
担当者 資格、役職等	元中学校体育教師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 健康生活を支える運動意識の意義と実施方法を理解し、自己の体力増進・健康管理に役立てる。</p> <p>【概要】 運動の意義や役割また効果について実技を通して学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の体力や役割の実態を把握し、体力増進の方法を身につけて自己の健康は自分で守り、高められるようにする。 ・ 運動の楽しさを味わう。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、体力とは、身体ほぐし、運動の意義と役割</p> <p>第2回 体力の測定と判定、マレットゴルフ</p> <p>第3回 同上</p> <p>第4回 体力の測定と判定、ソフトバレーボール</p> <p>第5回 同上</p> <p>第6回 体力測定結果とその生かし方、バスケットボール</p> <p>第7回 バスケットボール</p> <p>第8回 評価テスト</p>		
教科書	<p><用具>ボール（バレーボール、ソフトボール各10ケ）、スティック、マレットゴルフボール10組、ストップウォッチ2ケ、握力計1、背筋力計1、ものさし（1M）4本</p>		
参考書	不要		
評価の方法	<p>授業参加態度、技能面の観察、知識理解面のペーパーテスト 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	元中学校体育教師が体育について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習
分野	基礎分野	授業科目	音 楽
担当者 資格、役職等	元大学教授 元短期大学講師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 歌うことを通して音楽の魅力を理解するとともに、言葉や音楽についての感性を磨き、表現力を身につける。</p> <p>【概要】 姿勢、呼吸、発語（子音・母音）、発声（喉頭の調節・共鳴腔の設定）等を、音声生理や音楽心理に基づいて学びつつ、明治以来のわが国の唱歌の歴史を実践的に体験し、老人から幼児までの多様な音楽志向を、更に豊かなものにするための方策を考える力を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 琴歌や雅楽に基づく作品 「さくらさくら」「君が代」「いろは歌」</p> <p>第2回 外来の歌曲と瀧廉太郎の作品 「菊（庭の千草）」「埴生の宿」「荒城の月」「花」</p> <p>第3回 言文一致運動と文部省唱歌 「うさぎとかめ」「桃太郎」「春の小川」「夕焼小焼」</p> <p>第4回 大衆の歌謡を開拓した中山晋平 「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「てるてる坊主」 「証城寺の狸囃子」「中野小唄」</p> <p>第5回 賛美歌と子守唄 「きよしこの夜」「アメイジング・グレイス」 「江戸子守唄」「シューベルトの子守唄」「揺籃のうた」</p> <p>第6回 日本の抒情歌と世界の民謡 「雪の降る町を」「平城山」 「サンタ・ルチア」「野薔薇」「夢路より」</p> <p>第7回 戦後の新しい子どもの歌とフォークソング 「いぬのおまわりさん」「北風小僧の寒太郎」 「花はどこへいった」「翼をください」「あの素晴らしい愛をもう一度」「切手のないおくりもの」</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	伴奏付 こどものうた 印刷教材		
参考書			
評価の方法	出席率、受講アンケートの提出、唱歌の実技 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授と短期大学講師が音楽について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学 I 支える動く
担当者 資格、役職等	医師、医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 解剖生理学の学習体系や学び方を理解する。看護の対象である人の体の仕組みと機能を学ぶ。</p> <p>【概要】 解剖生理学の学習体系や学び方を理解し、看護の基礎となる体の構造や機能に関心・興味を持って学習に臨めるための位置づけとする。 “自分の体をのぞいてみよう”の最初として、自分の体を支持し、動かす仕組みについて学習する。(人体を構成する骨と筋肉)</p>		
授業計画	<p><総論；体の構造></p> <p>第1回 人体の構造と機能を学ぶために（専任教員）</p> <p>第2回 人体とは、細胞の構造</p> <p>第3回 細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能</p> <p>第4回 細胞の増殖と染色体、分化した細胞が作る組織</p> <p>第5回 構造からみた人体、機能から見た人体</p> <p><体を支え、動く></p> <p>第1回 骨格とは</p> <p>第2回 骨の連結－関節</p> <p>第3回 骨格筋</p> <p>第4回 体幹の構造と動き</p> <p>第5回 上肢の構造と動き</p> <p>第6回 下肢の構造と動き</p> <p>第7回 頭頸部の構造と動き</p> <p>第8回 筋の収縮－心筋・平滑筋</p> <p>☆9回；体の骨格を作る</p> <p>第15回目 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	消化器外科医師と整形外科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ コントロールする
担当者 資格、役職等	医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】神経系と感覚器は、人体に組みこまれた超高性能の情報ネットワークである。外界や体の各所からの膨大な量の情報が、瞬く間に中枢へと送られ、的確に分析処理されて、必要な場所へと指令が発せられている。人間の生命と意思や行動をコントロールする神経系と感覚器のたぐみなシステムを学習する。</p>		
授業計画	<p><コントロールする；感覚器系></p> <p>第1回 眼の構造と視覚</p> <p>第2回 耳の構造と聴覚・平衡覚</p> <p>第3回 味覚と臭覚（耳鼻咽喉）</p> <p>第4回 〃</p> <p>第5回 皮膚の構造と機能（痛覚）</p> <p><コントロールする；脳神経系></p> <p>第1回 神経系の構造と機能</p> <p>第2回 脊髄と脳</p> <p>第3回 〃</p> <p>第4回 脊髄神経と脳神経</p> <p>第5回 〃</p> <p>第6回 脳の高次機能</p> <p>第7回 運動機能と下行伝導路</p> <p>第8回 感覚機能と上行伝導路</p> <p>☆9回；脳と神経</p> <p>第15回目 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度、筆記試験 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	耳鼻科医師と内科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ 取り込む
担当者 資格、役職等	医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】 人間は生きるために「食べる」、「呼吸する」といった行動が必要である。栄養や酸素を取り込むための消化器、呼吸器は人体の中を通る管のような構造をしている。それぞれの器官が取り込むための構造と機能を学習する。</p>		
授業計画	<p><取り込む；呼吸器系></p> <p>第1回 呼吸器の構造（上気道、下気道、肺、胸膜、縦隔）</p> <p>第2回 気道と肺胞の機能、呼吸のメカニズム、呼吸器量</p> <p>第3回 〃</p> <p>第4回 血液の組成と機能、ガス交換、</p> <p>第5回 肺の循環と血流、呼吸運動の調節</p> <p><取り込む；消化器系></p> <p>第1回 口・咽頭・食道の構造と機能</p> <p>第2回 口・咽頭・食道の構造と機能</p> <p>第3回 腹部消化管の構造と機能</p> <p>第4回 腹部消化管の構造と機能</p> <p>第6回 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>第7回 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>第8回 腹膜</p> <p>☆9回；呼吸器官と消化管</p> <p>第15回目 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加態度、提出課題、筆記試験</p> <p>合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	内科医師と消化器外科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学IV めぐる・守る
担当者 資格、役職等	医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】 人体の細胞は、集団をつくって臓器や器官を形成し、人体の機能を分担している。そのすべての細胞に栄養素や酸素を届け、不要になった老廃物を運びさるのが血液とリンパ液であり、そしてその流れをつくるのが循環器である。体をめぐり、守る血液と循環器の機能を学習する。</p>		
授業計画	<p><めぐる・守る；血液・リンパ、循環器系></p> <p>第1回 血液の組成と機能、特に赤血球の新生、破壊</p> <p>第2回 白血球、血小板、血液の凝固と繊維素溶解、血液型</p> <p>第3回 心臓の構造、心臓の神経と血管</p> <p>第4回 心臓の拍出機能の理解のため心電図と刺激伝道系の関係</p> <p>第5回 心臓の収縮</p> <p>第6回 末梢循環系の構造（血管、肺循環、体循環）</p> <p>第7回 血液の循環の調節</p> <p>第8回 微小循環、循環器系の病態生理、リンパ管の構造とリンパの循環</p> <p>☆9回；心臓と血液</p> <p><めぐる・守る；免疫系></p> <p>第1回 皮膚の構造と機能（付属器、血管・神経）</p> <p>第2回 疼痛</p> <p>第3回 生体の防御機構（非特異的防御機構）</p> <p>第4回 " (特異的防御機構)</p> <p>第5回 体温とその調節</p> <p>第15回目 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	小児科医師と皮膚科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅴ 調整する・産み育てる
担当者 資格、役職等	医師 医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】細胞の生命維持にとって不可欠な内部環境の恒常性（ホメオスタシス）はどのように達成されているのか、協調して生命を維持するためにどのように調整されているのか、人という種を保存する働きをし、生殖にも関わる泌尿器・生殖器・内分泌系の働きを知る。</p>		
授業計画	<p><調整する；腎・泌尿器系></p> <p>第1回 腎臓の構造と機能</p> <p>第2回 クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質</p> <p>第3回 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿</p> <p>第4回 体液の調節（水の出納、酸塩基平衡、脱水、電解質の異常）</p> <p><調整する；内分泌系></p> <p>第1回 自律神経について</p> <p>第2回 内分泌について</p> <p>第3回 視床下部-下垂体</p> <p>第4回 甲状腺と上皮小体</p> <p>第5回 膵臓と副腎</p> <p>第6回 性腺・その他の内分泌</p> <p><産み育てる；生殖器系></p> <p>第1回 男性生殖器・女性生殖器の構造と機能</p> <p>第2回 受精と胎児の発生</p> <p>第3回 成長と老化</p> <p>☆4回；腎・泌尿器と生殖器、内分泌線</p> <p>第15回目 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度、提出課題 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	泌尿器科医師、麻酔科医師及び産婦人科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	生化学
担当者 資格、役職等	臨床検査技師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 生体の代謝調節機構やエネルギー産生機構を学習することにより、生命活動の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 生体の構成成分であるタンパク質、核酸（DNA、RNA）、糖質、脂質およびそれらの代謝について学習する。また、ホルモン、酵素、補酵素、ビタミン、電解質などについても学習し、生体の代謝調節機構について理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 生化学入門、体液の組成とその機能</p> <p>第2回 たんぱく質・アミノ酸とその代謝</p> <p>第3回 糖質（炭水化物）とその代謝</p> <p>第4回 脂質とその代謝</p> <p>第5回 ホルモンの種類と機能</p> <p>第6回 酵素およびビタミンの種類と機能</p> <p>第7回 核酸とその役割</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	ナーシンググラフィカ 臨床生化学		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床検査技師が生化学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	栄養学
担当者 資格、役職等	管理栄養士	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 生命活動を営むための各種栄養素の栄養学的意義と食物の消化、吸収、代謝、調節機構を理解し、臨床分野で役立ていく。</p> <p>【概要】 生体が発育・成長し生命を維持し、健全な生命活動を営む為に、体外から栄養素を取り入れる必要がある。栄養学では、栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝を学習し臨床栄養、食事療法を学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 栄養学とは</p> <p>第2回 栄養評価</p> <p>第3回 各種栄養素の機能</p> <p>第4回 エネルギー代謝</p> <p>第5回 食品構成</p> <p>第6回 食品の特徴</p> <p>第7回 発育段階と栄養 乳児期、学童・青年期</p> <p>第8回 成人期</p> <p>第9回 老年期、妊娠期</p> <p>第10回 臨床栄養 循環器疾患患者、消化器疾患患者の食事療法</p> <p>第11回 栄養・代謝疾患患者の食事療法</p> <p>第12回 腎臓疾患患者、血液疾患患者の食事療法</p> <p>第13回 周手術期、在宅療養患者の食事療法</p> <p>第14回 食事療法と倫理</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	わかりやすい 栄養学 第3版	HIROKAWA	
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・課題提出・筆記試験 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>管理栄養士が栄養学について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	薬理学 I
担当者 資格、役職等	薬剤師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】薬物の特徴、作用機序、人体への治療効果と副作用および薬物管理について学ぶ。</p> <p>【概要】薬理学とは薬物が生体に及ぼす作用を調べる薬物作用学と、体内での薬物の動きを研究する薬物動態学の両面からアプローチする必要がある。この事から看護師の視点に立った薬物治療の基礎を学んでいく。</p>		
授業計画	<p>第1回 薬物治療の目ざすもの：病気の治療、基本的性質、使用目的、 薬物療法に重要な看護師の役割</p> <p>第2回 薬はどのように作用するのか：薬理作用の基本形式、治療域と 作用点、投与経路</p> <p>第3回 薬はどのように体内をめぐるのか：吸収、分布、代謝、排泄、 生物学的半減期、薬物血中濃度</p> <p>第4回 薬物に影響する因子（Ⅰ）：年齢、薬理遺伝的形質、 薬物アレルギー</p> <p>第5回 薬物に影響する因子（Ⅱ）：薬剤耐性・依存、薬物相互作用</p> <p>第6回 薬物中毒はなぜおこるのか：背景、有益性と有害性、実例</p> <p>第7回 薬の管理と新薬の誕生：管理に注意を要する薬物、新薬の開発 医薬品情報の入手</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	わかりやすい 薬理学 HIROKAWA		
参考書			
評価の方法	授業参加度・レポート提出・筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	薬剤師が薬理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	微生物学と生活
担当者 資格、役職等	臨床検査技師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】感染症の原因となる病原微生物を理解し、看護に必要な知識を習得する。(1)病原微生物の種類と特徴を理解する。(2)感染の成立における宿主側の抵抗性と微生物側の病原性の関係を理解する。(3)感染予防と治療に関する基礎知識を習得する。</p> <p>【概要】医療従事者として必要な微生物学、感染症学、感染予防学の概説をおこなう。</p>		
授業計画	<p>第1回 微生物種類と特徴</p> <p>第2回 細菌の性質（形態と構造）</p> <p>第3回 細菌の性質（増殖と分類）</p> <p>第4回 真菌、原虫の性質</p> <p>第5回 ウイルスの性質</p> <p>第6回 感染と感染症</p> <p>第7回 感染防御機構と免疫</p> <p>第8回 感染症の予防とコントロール （診断、滅菌・消毒、治療、予防接種）</p> <p>第9回 感染症の現状と対策</p> <p>第10回 病原微生物（グラム陽性菌）</p> <p>第11回 病原微生物（グラム陰性菌）</p> <p>第12回 病原微生物（抗酸菌、嫌気性菌）</p> <p>第13回 病原微生物（マイコプラズマ、リケッチア、真菌、原虫）</p> <p>第14回 病原微生物（ウイルス）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(4)微生物学 医学書院		
参考書			
評価の方法	出席状況及び筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床検査技師が微生物学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学 I
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 病理的状態の患者の身体に生じている生理機能の異常のしくみを理解する。(病態生理)</p> <p>【概要】 生体の形態や生理的機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされる。病態学 I は病理的状態が引き起こされた患者の身体に生じている生理機能の異常の仕組みである病態生理を学ぶことである。病態生理を学ぶことで、損なわれた患者の生理機能を回復したり、失われた機能を補ったりするにはどうすればいいかを知り、治療や援助につなげるための根拠を知ることができる。</p>		
授業計画	<p>1. 循環のしくみの異常</p> <p>1) 循環障害の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>2) 循環器の正常性の破綻</p> <p>2. 消化・吸収のしくみの異常</p> <p>1) 腫瘍の発生の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>2) 消化管の機能の正常性の破綻</p> <p>3) 炎症発生の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>4) 栄養代謝障害の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>5) 肝臓の機能の正常性の破綻</p> <p>3. 生殖のしくみの異常</p> <p>1) 女性の生殖機能の正常性の破綻</p> <p>自己学習 (復習・まとめ)</p> <p>試験</p>		
教科書	病態生理学 病理学 医学書院		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験</p> <p>配点：各講師25点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	循環器内科医師及び内科医師、消化器内科医師、産婦人科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	循環器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 消化器疾患の専門基礎知識を学習し、看護を実践するための基礎を養う。</p> <p>【概要】 消化器の基本構造と機能を学習し、消化器症状を理解する。また、主要な消化器系疾患の病態を理解することで、各種疾患の症状・検査・治療などの理解を深める。</p>		
授業計画	第1回 消化器の構造と機能 第2回 症状・徴候とその病態生理 第3回 検査と治療・処置 第4回 疾患の理解 ①口腔・食道・胃・十二指腸疾患 第5回 疾患の理解 ②腸および腹膜疾患 第6回 疾患の理解 ③肝臓・胆道疾患 第7回 疾患の理解 ④膵臓疾患および急性腹症（および消化器疾患のまとめ） 第8回 試験		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器	メヂカルフレンド社	
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度・授業参加態度 配点：50点 循環器分野とあわせて評価し、合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	消化器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	消化器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>循環器疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】</p> <p>循環器系の疾患について学び、専門性の高いこれらの領域における看護に対応できるように、病態、検査、治療に対する理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 循環器系のしくみと働き</p> <p>第2回 循環器系の主な症状</p> <p>第3回 循環器系疾患の検査</p> <p>第4回 循環器系疾患の病態と治療①</p> <p>第5回 循環器系疾患の病態と治療②</p> <p>第6回 循環器系疾患の病態と治療③</p> <p>第7回 循環器系疾患の病態と治療④</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器	メヂカルフレンド社	
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験</p> <p>配点：50点</p> <p>消化器分野とあわせて評価し、合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	循環器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	血液分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 内分泌代謝疾患の病態を理解し、その治療看護を修得する。</p> <p>【概要】 (下記)</p>		
授業計画	<p>第1回 内分泌・代謝疾患の看護 第2回 内分泌・代謝疾患の構造と機能 第3回 内分泌・代謝疾患の症状、病態生理 第4回 内分泌・代謝疾患の検査 第5回 内分泌疾患の理解 第6回 代謝疾患の理解 第7回 内分泌疾患の看護 第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 内分泌／栄養・代謝 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度・授業参加態度 (血液分野とあわせて評価する) 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	腎・内分泌内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	内分泌代謝分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 専門的看護援助の理論としての疾患別の病態生理、臨床像、治療について学ぶ。この授業では血液疾患に照準をあて解説する。</p> <p>【概要】 専門的看護援助の基礎的知識として、疾患からみた病態を把握することを目的とし、主に成人疾患を対象とした疾患別の病態生理、臨床像、治療についての理論を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 総論①血液の生理と造血のしくみ</p> <p>第2回 総論②血液疾患の検査と治療・処置の概要</p> <p>第3回 各論①赤血球系の疾患</p> <p>第4回 各論②白血球系の疾患 その1</p> <p>第5回 各論③白血球系の疾患 その2</p> <p>第6回 各論④リンパ・網内系の疾患、異常タンパク血症</p> <p>第7回 各論⑤出血性疾患</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 メヂカルフレンド社		
参考書	詳細は別途プリントで配布		
評価の方法	出席状況 筆記試験 (内分泌代謝分野とあわせて評価する) 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	血液内科医師（3名）が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学IV
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	免疫・アレルギー分野と合わせて 1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 呼吸器疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器系の構造と役割について学ぶ。 ・ 臨床で一般的に行われる検査・処置・治療について理解する。 ・ 呼吸器疾患の基礎的な知識を学習する。 		
授業計画	<p>第1回 呼吸器系の構造と機能</p> <p>第2回 呼吸器疾患の症状とその病態生理</p> <p>第3回 呼吸器疾患の検査</p> <p>第4回 呼吸器疾患の治療処置</p> <p>第5回 呼吸器疾患の理解①</p> <p>第6回 呼吸器疾患の理解②</p> <p>第7回 呼吸器疾患の理解③</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・課題提出（免疫・アレルギー分野とあわせて評価する） 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	呼吸器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学IV
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	呼吸器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 免疫・アレルギー系疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】 「生態防御」役割を担う免疫の仕組みと働き、アレルギーの症状について学び、更に膠原病を含めた免疫・アレルギー系疾患の病態と治療について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 免疫のしくみと働き</p> <p>第2回 アレルギーの主な症状</p> <p>第3回 免疫系疾患の主な症状</p> <p>第4回 免疫・アレルギー疾患の検査</p> <p>第5回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (アレルギーの疾患・気管支喘息)</p> <p>第6回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (膠原病)</p> <p>第7回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (膠原病)</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病 メヂカルフレンド社		
参考書	好きになる免疫学 講談社サイエンティフィク		
評価の方法	授業参加度・筆記試験（呼吸器分野とあわせて評価する） 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	皮膚科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	総合医療論
担当者 資格、役職等	副学校長（看護職） （臨床経験22年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】医療及び看護に関する総合的な問題を知り、幅広い視野でこれからの展望とあり方について考えることができる。</p> <p>【概要】医療・看護の問題をより深く理解するために、病と健康に関する多くの学問が相互につながっていること、生物学的医学は実は医学の一部にすぎないことを強調し、保健・医療の実践の場で問われている基本的な問題を取り上げ、幅広い視野で自分の頭で考える習慣をつけるための導入とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 医療と看護の原点</p> <p>第2回 医療の歩みと医療観の変遷</p> <p>第3回 私たちの生活と医療</p> <p>第4回 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題</p> <p>第5回 成熟する社会と人々の意識改革</p> <p>第6回 医療を見つめなおす新しい視点</p> <p>第7回 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・レポート 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験や管理職経験を持つ副学校長（看護職）が総合医療論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	看護学概論
担当者 資格、役職等	教務主任 (臨床経験15年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】看護学全般的に共通する基本的原理と看護の理念及び社会的使命（役割）について学ぶ。</p> <p>【概要】看護の基本となる概念を理解し、看護について学ぶことの興味を高めていく。また、「看護とは」を探求する姿勢を養い、その後の看護学の学習へとつなげていく。本授業全般をとおして専門職として行う「看護」について考える機会とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の体系 2. 看護とは何か 3. 看護とは何か さまざまな定義から 4. 看護とは何か 事例から 5. 看護実践のための看護理論 6. 看護実践のための看護理論 (看護理論の概観) 7. 看護実践のための看護理論 (ヘンダーソンの看護理論) 8. 健康の概念 9. 健康に影響する環境 10. 専門職としての看護師 11. 看護における倫理 12. 看護活動の場 13. 看護活動の場 (市民病院見学の学びから) 14. これからの看護の見通しと看護教育 15. 試験 		
教科書	ナーシングス・グラフィカ 基礎看護学 看護学概論		
参考書	看護の基本となるもの（日本看護協会） ナイチンゲール 看護覚え書き 現代社		
評価の方法	筆記試験 授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	共通基礎看護技術 I
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験16年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>共通基礎看護技術Iでは、あらゆる対象、場、健康段階の人々への看護を実践するために必要な共通の基礎看護技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間尊重に基づいた技術のあり方と看護技術の基礎を学ぶ。 2. 看護実践に不可欠な安全・安楽の考え方、感染予防の技術、環境調整の技術について学習する。 3. 安全、快適な生活を送るために必要な療養環境を患者の状況や場面に合わせて調整する力を養う。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは（講義） 看護技術の概念、共通看護技術 I の位置づけ 2. 看護技術における安全と安楽（講義） 3. 感染予防の意義と技術（講義） 4. 感染予防の技術の実際 手洗い・ガウンテクニック・無菌操作（演習） 5. // 6. 感染予防のための組織と看護師の役割（講義） 7. 生活環境（講義） 人間と環境の関連性 8. 生活環境と療養環境 9. 療養環境のアセスメント（講義） ベッドの構造・寝具の種類、環境整備の方法など 10. 病床環境を整える援助技術（演習） ベッドメイキングの方法 11. // 12. 臥床患者の環境調整 病床の環境を整える（演習） 13. // 14. 場面、状況に応じた環境調整(安全の視点と連動)（演習） 15. 筆記試験 		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 I メディカ出版		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験、授業参加度、演習参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が共通基礎看護技術について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅠ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験22年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。</p> <p>【概要】 看護が対象とする人々の健康状態を身体的・精神的・社会的にアセスメント（査定）する総合的な視点（ヘルスアセスメント）の基礎を学ぶ。その中で身体的なデータを収集、アセスメントするフィジカルイグザミネーションの技法（バイタルサインの測定）の実際を学ぶ。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとは 講義 <ol style="list-style-type: none"> 1)ヘルスアセスメントの目的と意義 2)ヘルスアセスメントにおける観察と情報 3) 身体的健康状態のアセスメント（フィジカルアセスメント）の内容と基本 フィジカルアセスメントにおける基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 一般状態のアセスメント バイタルサイン 身体計測 4)心理・社会的健康状態のアセスメントの内容と技術 5)セルフケア能力のアセスメントの内容と技術 2. バイタルサインとは 講義 <ol style="list-style-type: none"> 1)バイタルサインの意味するもの 2)バイタルサインを観察する意義 3)バイタルサインのアセスメントに必要な知識 3. 身体測定の実際 演習 4. バイタルサイン（体温・呼吸・脈拍・血圧）の測定方法 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腋窩での体温測定 2) 呼吸測定 3) 橈骨動脈での脈拍測定 4) 血圧測定 5. " 6. " 7. 事例に基づいたバイタルサイン測定の実際 演習 8. 筆記試験 		
教科書	ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ "		
参考書	メディックメディア 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント		
評価の方法	筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員がヘルスアセスメントについて教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	基礎看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <p>安全かつ安楽な動作につながるボディメカニクスを理解し、人間の運動・活動・休息・睡眠のアセスメントと対象が安全で快適な日常生活を過ごすための基本となる活動や姿勢の援助と休息の援助の内容と方法を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 活動・運動とは 講義 活動と休息のバランス</p> <p>第2回 休息・睡眠とは 講義 睡眠の生理、休息・睡眠を促す援助</p> <p>第3回 安楽な体位保持 講義・演習 基本的な体位、ボディメカニクス技術</p> <p>第4回 活動と休息の援助 講義・演習 活動・運動のアセスメント、運動機能を維持・回復するための援助</p> <p>第5回 体位変換・安楽な体位保持 演習</p> <p>第6回 移動の援助 演習 ストレッチャーによる移動、車椅子による移動</p> <p>第7回 事例に基づいた演習 演習</p> <p>第8回 筆記試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術		
評価の方法	授業参加度、演習参加度、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験12年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】 日常生活の援助技術のうちの、身体の清潔を援助する技術について学ぶ。援助の根拠として生体のメカニズムを捉え、対象が快適で人間らしい生活を送ることができるように、清潔の意義・目的を学ぶとともに、安全で安楽な具体的な清潔の援助方法、技術を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 清潔の意義</p> <p>第2回 清潔援助の実際① 「寝衣交換」</p> <p>第3回 " ② 「臥床患者の寝衣交換」</p> <p>第4・5回 " ③ 「臥床患者の洗髪」</p> <p>第6回 " ④ 「口腔ケア」「整容」</p> <p>第7回 " ⑤ 「手浴・足浴」</p> <p>第8回 " ⑤ 「陰部ケア」</p> <p>第9.10.回 " ⑥ 「臥床患者の全身清拭」</p> <p>第11.12.回 " ⑦ 「臥床患者の熱布清拭（ホットタオル）」</p> <p>第13.回 " ⑧ 「入浴」「シャワー浴」</p> <p>第14.回 身体の清潔を援助する技術 まとめ</p> <p>第15.回 筆記試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験16年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <p>日常生活の援助技術のうちの食事と排泄について学ぶ。援助の根拠として生体のメカニズムを捉え、対象が快適で人間らしい生活を送ることが出来るように、食事と排泄の意義・目的を学ぶとともに安全で安楽な食事と排泄の具体的な援助方法、技術を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 食事とは 食事摂取の意義 (講義) 食事に関する生物学的メカニズム</p> <p>第2回 食事・栄養のアセスメント</p> <p>第3回 食事援助の実際 -1-</p> <p>第4回 栄養摂取の方法と種類</p> <p>第5回 食事援助の実際 -2- (演習)</p> <p>第6回 排泄とは 排尿・排便の意義・メカニズム (講義) 排尿・排便のアセスメント</p> <p>第7回 排泄援助の方法 排泄・排便の援助の内容と方法 (講義)</p> <p>第8回 排尿・排便の援助の実際-1- 床上排泄での排泄の援助、おむつを用いた援助 ポータブルトイレの援助 (演習)</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 事例を用いた排泄の援助 (演習)</p> <p>第11回 排尿障害の種類と援助 (講義)</p> <p>第12回 排尿・排便の援助の実際-2- 一時的導尿</p> <p>第13回 排便障害の種類と援助 (講義)</p> <p>第14回 排尿・排便の援助の実際 -3- 浣腸・摘便 (演習)</p> <p>第15回 // 筆記試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験、授業参加度、演習参加度により総合評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	基礎看護学援助論IV
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験12年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護師としてのコミュニケーションの基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>【概要】 看護における人間関係の知識を深め、患者、看護師、他の医療従事者とのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、自己を振り返る手段としてプロセスレコードについて学びを深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 保健医療チームにおける人間関係 チーム チームワーク リーダーシップ</p> <p>第2回 看護とコミュニケーション 人間関係を作る技法</p> <p>第3回 看護におけるコミュニケーションの重要性 患者の闘病生活を支える人間関係 家族を含めた人間関係</p> <p>第4回 リフレクションの必要性 自分を見つめる自分 プロセスレコード 会話を振り返る意味</p> <p>第5回 看護の中でのコーチング アサーション カウンセリング</p> <p>第6回 チームエラーと医療事故</p> <p>第7回 地域で作る人間関係 ソーシャルサポート ネットワーク</p> <p>第8回 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻⑭「人間関係論」(医学書院) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①基礎看護技術 I メディカ出版		
参考書			
評価の方法	出席と授業参加度(毎回提出物あり)、筆記試験、レポート提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	基礎看護学援助論V
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験16年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 科学的根拠に基づく思考過程を学び、対象を統合的に捉え、看護実践するプロセスとその意義、方法を理解することができる。</p> <p>【概要】 1. 看護における問題解決過程の内容と方法を学ぶ。 2. 事例を用いてアセスメント・看護計画の立案を行い、論理的に物事を考え、判断し、看護実践する過程と展開の実際を学ぶ。 3. グループワークで自分の意見を論理的に述べたり、他者の意見を聞くことを通し看護過程の思考過程を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 看護過程とは 問題解決思考と看護過程 講義 第2回 看護過程の構成要素 アセスメント 講義 第3回 //</p> <p>第4回 看護過程の構成要素 看護過程の明確化 講義 第5回 看護過程の構成要素 看護計画の立案 講義 第6回 看護過程の構成要素 実施と評価 講義 第7回～第14回 事例による看護過程の展開</p> <p>①アセスメント 講義/個人ワーク 関連図の作成 個人ワーク/グループワーク ②看護問題の明確化 グループワーク/講義 ③看護計画の立案 グループワーク/講義</p> <p>第15回 筆記試験・まとめ</p>		
教科書	ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版		
参考書	看護過程の解体新書 Gakken 実習記録・看護計画の解体新書 Gakken		
評価の方法	筆記試験、授業参加、課題の提出、最終課題 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	診療・検査に伴う看護Ⅰ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験22年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>診療の目的、検査の種類が理解できる。検査、治療を受ける対象のアセスメントができる。診療における看護師の役割が理解できる。</p> <p>【概要】</p> <p>診療(診察、検査、治療、処置)における検査や治療の目的と対象の心理を理解し、対象にとって安全・安楽な診療を作る看護師の役割を学ぶ。 視覚教材を用い、イメージ化を図り、理論と演習を組み合わせた学習構造とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 診療の位置づけ、検査治療の実際 看護師の役割 (講義) 検査の種類Ⅰ;検体検査</p> <p>第2回 検査の種類Ⅱ;生体検査 (講義)</p> <p>第3回 検査を受ける対象のアセスメントと援助Ⅰ (講義) 検体検査</p> <p>第4回 検査を受ける対象のアセスメントと援助Ⅱ 生体検査</p> <p>第5回 治療を受ける対象のアセスメントと援助Ⅰ 主な治療法(内科編;薬物療法、運動療法、食事療法、リハビリテーション、放射線療法)</p> <p>第6回 治療を受ける対象のアセスメントと援助Ⅱ 主な治療(外科編;手術療法、麻酔)</p> <p>第7回 事例を用いての演習</p> <p>第8回 筆記試験 (基礎看護技術-南江堂、治療法概説-メヂカル)</p>		
教科書	ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版		
参考書	メイックメディア 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メイックメディア 看護がみえる vol.2 基礎看護技術		
評価の方法	授業参加度、筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	診療・検査に伴う看護Ⅱ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 治療に伴う、生体が受ける創傷や侵襲の治癒過程やそれに応じた処置(与薬)について理解できる。</p> <p>【概要】 与薬は、対象の苦痛を軽減・治癒させることを目的とし行われるが、状況によっては非常に侵襲を伴う行為である。対象の安全・安心に配慮した正確な知識と技術を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 創傷管理の基礎知識 (講義)</p> <p>第2回 創傷処置 (講義)</p> <p>第3回 与薬とは(与薬の知識) (講義)</p> <p>第4回 与薬の種類と適応、方法、看護Ⅰ (講義)</p> <p>第5回 // 看護Ⅱ (演習)</p> <p>第6回 注射の適応と方法、看護;皮内注射、皮下注射 (講義)</p> <p>第7回 筋肉内注射 (講義)</p> <p>第8回 注射の適応と方法、看護;静脈内注射</p> <p>第9回 注射の演習;輸液療法に伴う機器の目的と操作 (演習)</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 点滴静脈内注射(採血)、注射法の実際</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 輸血の目的、方法、看護 (講義)</p> <p>第14回 ケーススタディ</p> <p>第15回 筆記試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版		
参考書	メディックメディア 看護がみえる vol.1看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2基礎看護技術		
評価の方法	授業参加度、筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	臨床看護総論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験10年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 健康障害をもつ人の看護を学ぶ。</p> <p>【概要】 臨床看護総論では、専門基礎分野の既習の知識を統合し活用して「看護の視点で捉えた機能障害の看護」を学ぶとともに、入学以来培ってきた学習方法をさらに主体的学習へと発展させる。その先は各看護学につながり、そこでは各看護学における特性を反映させた機能障害の看護を教育内容の柱として学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 臨床看護総論の位置付け 健康障害の対象の心理／病む人の心</p> <p>第2回 健康障害としての機能障害を看護の視点で捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状に応じた看護 ・治療処置に伴う看護 ・経過に基づく患者の看護 <p>第3回 症状に応じた看護</p> <p>第4回 治療処置に伴う看護</p> <p>第5回 経過に基づく患者の看護</p> <p>第6回 事例に沿った演習</p> <p>第7回 ”</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度 課題評価 筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が臨床看護総論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	暮らしを理解する
担当者 資格、役職等	副学校長（看護職） （臨床経験22年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人々の暮らしと暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>【概要】 地域で「暮らす」とはどういうことかを考え、暮らしが健康に影響することを学ぶ。時間の流れや場の広がりライフイベントなどとともに人々の暮らしを理解する。また、看護の対象は地域で暮らすすべての人々であることを学び、あらゆる健康段階、あらゆる発達段階の人々が看護の対象となることを理解する。地域包括ケアシステムの意義と概念についても学ぶ内容とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 暮らすということはどういうことか ・衣食住 ・育む ・学ぶ ・働く（稼ぐ） ・つながる</p> <p>第2・3・4回 ライフサイクルと人々の暮らしを理解する。 *子どもを産み育てる *学ぶ・働く *病を治す *老いと生きる *最後を迎える 様々な暮らしの場</p> <p>第5・6・7・8・9回 人々が暮らす地域の理解（個人ワークorグループワーク） *自分が暮らす地域を調べる。（地域の特性を調べる） ・人口動態（どのようなライフステージの人々が暮らしているか） ・地域における生活課題や健康課題 ・課題に対する取り組み ・地域の暮らしを継続するための社会資源</p> <p>第10・11・12回 地域・在宅看護論の対象の理解と看護の基盤となる概念を理解する ・地域に暮らす人々が看護の対象 健康状態：健康～終末期 発達段階：胎児期～老年期 家族も看護の対象 実習とリンクさせる</p> <p>第13・14回 健康で暮らすための看護職の活動（地域ケアシステムの中での看護職の活動） *自助（セルフケア） 互助 共助 公助における看護職に活動 *継続看護</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	出席時間、授業態度、グループワーク参加度、課題の内容、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験や管理職経験を持つ副学校長（看護職）が人々の暮らしと暮らしが健康に与える影響について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	家族看護論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験12年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 「家族とは」、「家族の機能とは」、を考えながら、現代家族の多様性と家族の課題を理解し家族援助の基礎的知識を身につける</p> <p>【概要】 少子社会、超高齢社会である現代、看護の対象は患者だけでなく、家族を含めて援助する視点が求められている。家族の健康を支えるため、家族の概念、形態・機能、役割を理解するとともに変容する現代家族について理解を深め、家族の支援について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 家族看護を学ぶ意義 家族とは、家族の形態の変化</p> <p>第2回 家族の構造と機能</p> <p>第3回 現代の家族とその課題</p> <p>第4回 家族を理解するための基礎理論</p> <p>第5・6・7回 事例 家族の健康問題と支援</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院		
参考書			
評価の方法	筆記試験、レポート、授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が家族看護論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	成人看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 成人期にある対象を理解し、対象が健康な生活を送るための看護を学ぶ。</p> <p>【概要】 成人期である自己を理解し、成人期という発達段階の特徴と成人を取り巻く環境について学ぶ。成人期の特徴については「生涯発達」という観点から学習をすすめ、成人期としての特徴を理解し、成人の一般的生活の特徴を生活習慣の視点から学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1回 成人期にある人の理解 成人であるということ</p> <p>第 2回 " 成長発達の特徴</p> <p>第 3回 " 身体機能の特徴と看護</p> <p>第 4回 " 成人の生活を理解する視点と方法 健康観の多様性と看護</p> <p>第 5回 " 学習の特徴と看護</p> <p>第 6回 成人期にみられる健康障害 生活習慣に関連する健康障害</p> <p>第 7回 " ワーク・ライフ・バランスと健康障害</p> <p>第 8回 " セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害 更年期にみられる健康障害</p> <p>第 9回 地域保健について (行政保健師)</p> <p>第 10回 産業保健について (産業保健師)</p> <p>第 11回 成人への看護に有用な概念 病みの軌跡・セルフケア</p> <p>第 12回 " ストレス・危機</p> <p>第 13回 " 適応・自己効力</p> <p>第 14回 " ヘルスプロモーション まとめ</p> <p>第 15回 筆記試験</p>		
教科書	ナースィング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 国民衛生の動向		
参考書			
評価の方法	授業参加度・課題・レポート・筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	老年看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験12年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 高齢者を理解できるように、老いるとはどういうことかを講義や演習等通して学ぶ。その上で、高齢者の看護に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【概要】 加齢によって起こる身体的変化・心理的变化・社会的変化について学習し、高齢者体験などを通して、老いるとはどういうことかをイメージしていきます。高齢社会について、特に介護保険制度を中心に学習し、高齢者にとっての健康とは何か、健康を維持するために何が必要かを考えていきます。</p>		
授業計画	<p>第1回 「老いる」ということ</p> <p>第2回 老年期の理解 加齢変化 (グループワーク)</p> <p>第3回 高齢者体験 (演習)</p> <p>第4回 高齢者体験 (演習)</p> <p>第5回 高齢者体験のまとめ</p> <p>第6回 加齢変化 (グループワーク)</p> <p>第7回 加齢変化 (グループワーク)</p> <p>第8回 加齢変化 (発表)</p> <p>第9回 加齢変化 (発表)</p> <p>第10回 高齢者を取りまく社会制度</p> <p>第11回 高齢者を取りまく社会制度</p> <p>第12回 高齢者の権利擁護</p> <p>第13回 老年看護に活用できる理論 高齢者の生活機能のアセスメント (指標やツールの活用)</p> <p>第14回 老年看護のめざすもの</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	筆記試験 授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	小児看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験11年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>小児期にある対象とその家族を理解し、対象が健康な生活を送るために看護実践に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>少子化、核家族化がますます進んでいるなか、子育ての環境は危機的状況にある。親や子どもの心の健康問題が顕在化している現在、小児看護学を学習し、その知識・技術を家族に提供する必要がある。</p> <p>小児看護学概論では、成長・発達という観点から学習をすすめ、身体的、精神的、社会的に対象がどのような変化の過程をたどるかを理解する。また、不適切な環境や養育が与える影響など、小児期が抱える健康問題を含めて理解するとともに、小児が健康に生きるための小児と家族への援助について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 小児期とは、子どもを取り巻く環境</p> <p>第 2 回 小児医療・看護とは、子どもの権利</p> <p>第 3 回 成長・発達の意義、身体発育評価 成長・発達に影響を与える因子</p> <p>第 4 回 新生児期から乳児期の子どもの特徴と看護</p> <p>第 5 回 子どもの基本的生活習慣の獲得</p> <p>第 6 回 ”</p> <p>第 7 回 幼児期の子どもの特徴と看護</p> <p>第 8 回 学童期の子どもの特徴と看護</p> <p>第 9 回 思春期・青年期の子どもの特徴と看護</p> <p>第10回 子どもの健康や子育てを支える法律および施策</p> <p>第11回 予防接種</p> <p>第12回 児童虐待</p> <p>第13回 小児看護に必要なコミュニケーション方法 (GW)</p> <p>第14回 ” (発表)</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健(メヂカルフレンド社)		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	授業参加度・課題・筆記試験より総合評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が小児看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	母性看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験22年)	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 母性看護の対象を理解するために、母子保健および女性のライフサイクル各期の健康とその支援について学ぶ。</p> <p>【概要】 母性看護学を学ぶにあたり、母性を「健全な次世代を育成する母性の重要性」「母性・父性の特徴と役割」の視点から、母性を取り巻く現代社会の特徴と関連付けて学ぶ。</p> <p>母子保健の現状を学習し、子育て環境の課題について考え、母性看護の役割を理解する。また母性看護における対象である女性の一生を、パートナーである男性との関係を含めて捉え、ライフサイクル各期において身体的・精神的・社会的特徴から理解する。そして、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点で母性各期の健康問題を捉え、対象への支援について考える。人間が充実して生きるためのセクシュアリティの意義についても考える機会とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 母性とは 父性とは 親になるとは</p> <p>第2回 母性看護の対象と役割、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ</p> <p>第3回 母子保健動向と母子保健施策</p> <p>第4回 女性のライフサイクルにおける形態・機能、</p> <p>第5回 セクシュアリティ、性の多様性</p> <p>第6回 ライフサイクル各期の特徴、健康問題とその看護、グループワーク</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	筆記試験・授業参加度・課題により総合評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師、助産師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	精神看護学概論
担当者 資格、役職等	看護師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 囚が生まれてから死へ向かう過程における「こころ」の発達を理解し、「こころ」の健康を保持・増進するために必要な理論と技術を理解する。 2. 精神医療や看護の歴史と現状について理解し、その課題について考えることができる。 3. 精神障がいのある対象への支援と権利擁護について理解する。 4. 精神障がいのある対象の回復を支える医療チームの機能と役割について理解する。 5. 自分自身が対象の環境要因にもなることを理解する。 <p>【概要】</p> <p>人の「こころ」のしくみについて、ライフサイクル(人が生まれてから死に向かう過程を段階に分ける)の危機と発達を含めながら学習をする。「こころ」に影響を及ぼす環境を取り上げて危機とも関連させながら体系を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 「こころ」を病むということ 精神看護の対象について□</p> <p>第2回 「こころ」の健康とは</p> <p>第3回 ストレスと健康の危機</p> <p>第4回 人間の「こころ」のはたらきとパーソナリティ：人間の心の諸活動</p> <p>第5回 人間の「こころ」のはたらきとパーソナリティ：</p> <p>第6回 心のしくみと人格の発達</p> <p>第7回 関係のなかの人間：家族</p> <p>第8回 関係のなかの人間：集団</p> <p>第9回 精神障がいと治療の歴史；西洋と日本</p> <p>第10回 精神障がいのある対象の戦後 病院か地域か DVD グループワーク</p> <p>第11回 精神障がいと文化</p> <p>第12回 精神障がいと法制度；精神看護と法律</p> <p>第13回 精神障がいと法制度；精神科領域で必要な法律と制度 権利擁護</p> <p>第14回 精神科で出会う人々</p> <p>第15回 単位認定試験</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学 (1)</p> <p>精神看護の展開 精神看護学 (2) (医学書院)</p>		
参考書	<p>武井麻子 精神看護学ノート 医学書院</p>		
評価の方法	<p>筆記試験・授業参加度・課題により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師が精神看護学概論について教育する科目</p>		